出会う→集う→育てる→実る

ラコルタ

吹田市立市民公益活動センター

どなたでもお気軽にご参加ください。

からのお知らせ

※費用が明示されていないイベントは無料。
※申込期限が書かれていない場合は当日まで。

▼お申込み・お問い合わせは電話かFAXでラコルタまで。
電話：06-6155-3167　FAX：06-6833-9851

9月20日(土) ほうしゃのうと暮らしのおしゃべり会

放射能について東日本大震災による自主避難者の方と一緒にお話しませんか？

●とき：13:30～16:30　●定員：先着20名
●費用：1家族＝100円

9月21日(日) CB・SB 成功のヒケツ

ビジネス型社会貢献活動（CB・SB）の事例をもとに、フォーラム形式で学びましょう。

●とき：14:00～17:00　●定員：先着50名

9月25日(水)・10月23日(水)・11月27日(水) 自分にあった ボランティア活動を 見つけませんか？

～市民公益活動入門講座～

●とき：いずれも13:30～15:00
●定員：各先着10名
●対象：始めてみたい方や理解を深めたい方

テーマカフェ

毎月テーマを決めて参加者同士で気軽にお話しましょう！

9月27日(土) 「ネオシニアの生き方について」

ネオシニア世代（団塊より少し下の世代）の生き方や働き方について考えます。

●とき：18:00～20:00　●定員：先着20名
●対象：関心のある方はどなたでも

10月25日(土) 「終活について」

「終焉」を見つめ準備することで、今をよりよく生きようという「終活」について考えます。

●とき：10:30～12:00　●定員：先着10名

11月22日(土) 「子どもの貧困について考える」

子どもの貧困の現状や事例を学び、吹田の子どもたちのこれからを一緒に考えます。

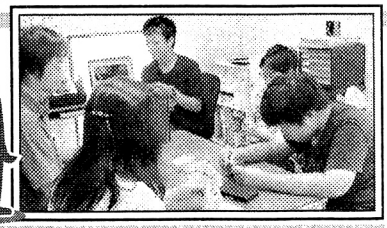
●とき：14:00～16:30　●定員：先着40名

ぷちボラ 働きざかりの方や家事・勉学に忙しい方などに、週末や余暇の新しい過ごし方として、「短時間でできる（ぷち）ボランティア活動」のプログラムを提供します。

⇐詳しくはWebで

連載 私たちの団体・私たちの活動 第4回

市民公益活動団体インタビュー



吹田子ども支援センター　代表 森本 英之さん

Q 設立の経緯は？

A 2013年4月、元教師・市民が中心となり、不登校・発達障害・学力・進路・教育トラブル・貧困や家庭事情などで子育てに悩む親、苦しむ子ども達を支援しようと、千里山に「吹田子ども支援センター」を開設し、活動を開始しました。

Q 具体的な活動内容は？

A 親の相談には、教育経験者や心理士が助言し、医療・福祉・法律等の専門家を含む市民スタッフがサポートしています。
子どもたちには、学習支援や助言を行い、子ども達の居場所「子どもカフェ」を運営しています。

Q 見えてきた課題や今後の展望について

A 活動から見えてきたことは、悩み苦しむ親子の具体的な姿です。その中にあって、貧困と格差の現実も突きつけられています。貧困家庭の子どもは、医療・行政・民間の支援を受ける機会、文化・教育活動に参加する機会が少ないのが現状です。進路選択も範囲が狭くなります。格差社会の現実・貧困の連鎖を日々痛感しています。今、私たち市民が支援ネットワークを拡大していくこと、行政が市民と連携して有効な施策を実施していくことが必要だと思っています。

<吹田子ども支援センターへのお問い合わせ・連絡先は>
〒565-0851 吹田市千里山西1-2-7-102 TEL/FAX 06-7493-5581

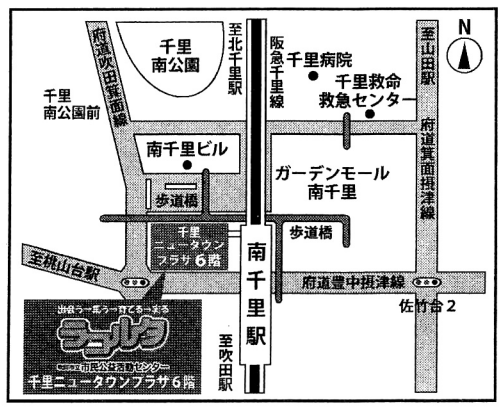
編集後記 新しくスタッフになりました矢野です。ラコルタはオープンして丸2年になりますが、もっと学生や若い世代にも、ラコルタを利用してもらえたらなぁ、ボランティアを身近に感じてもらえたらなぁ、と思っています。残暑にも負けず、明るく楽しく！吹田のボランティア活動をこれからも応援していきます！ (矢野)

<発行責任者>柳瀬真佐子 (五十音順)
<編集スタッフ>茨木由美・岩井聰・鍵谷誠一・佐藤和男・春貴勇力・矢野眞里加・李 顥

出会う→集う→育てる→実る
ラコルタ
吹田市立市民公益活動センター

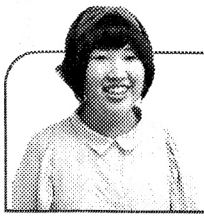
〒565-0862 吹田市津雲台1丁目2番1号
千里ニュータウンプラザ6階
TEL 06-6155-3167 FAX 06-6833-9851
Eメール info@suita-koueki.org
ホームページ http://suita-koueki.org

指定管理者 NPO法人 市民ネットすいた



活動のキッカケは様々！

交流会の参加者にインタビューしました。



戸塚 亜佑美さん

学 校：関西大学
活動団体：チャレンジャー

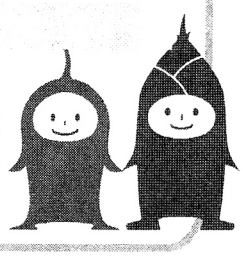
公務員を目指してボランティア活動に：活動をはじめたきっかけは、心理職公務員を目指していて、活動を通じて経験を積んでおきたいなと思ったからです。「チャレンジャー」では、障害者施設や盲学校でのイベントのお手伝いなどをしています。そういった現場で体験できることは実になっているのかなと思います。**交流会に参加して：**大学内のサークル同士でも話したことがあるのですが、ボランティアという言葉自体のハードルはあるのかなと思います。そんなに大そうなことをしているわけじゃないのに、周りからは真面目やなぁと思われたりするのはちょっと複雑な気分。その時はBBQをやったりとか、新歓の時にもっと工夫ができたらいいよねっていう話をしました。

ラコルタサポーターが大活躍！

今回の交流会では、ラコルタサポーターにグループワークの進行をお手伝いしていただきました！ご協力いただいたサポーターからは、**「学生・行政・NPO などをつなぎ、面白いことができたらなと思いました」**、**「ラコルタを通じて吹田のまちづくりを担う人材が増えてくれたら嬉しいです」**といった今後の交流会の可能性や、学生たちへの期待の声をいただきました。

★ラコルタサポーターとは？

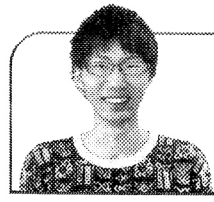
ラコルタが行うイベントや活動を応援し、ボランティアとして一緒にラコルタを盛り上げていただいています。



浅井 悠さん

学 校：大阪学院大学
活動団体：さたけ教室

授業での紹介がきっかけで：教職の授業で先生が、子どもたちへの学習支援を行っている活動を紹介してくださったのがボランティアを始めたきっかけでした。最初はやってみようかなぁという軽い気持ちで参加しましたが、実際にやってみると非常に楽しく、子どもたちからいつも元気とパワーをもらっています。**活動の中での気づき：**私は教師を目指していて、ボランティア活動で子どもたちと出会うまでは学習の支援をすることしか頭にありませんでした。しかし、実際に子どもたちと関わり、学校での出来事など友達感覚で会話をしていくうちに、子ども1人1人の気持ちやその背景を理解することが大切だと学びました。



金木 俊也さん

学 校：大阪大学
活動団体：3・11関西学生ネット阪大

東日本大震災が起きて被災地へ：東日本大震災直後の 2011 年 7 月に当時のサークル代表の呼びかけに応じて被災地へ行ったのをきっかけに、活動を始めました。肉体労働による復興支援をしていましたが、今は関西でできる活動として「希望のひとはりプロジェクト」を立ち上げ、岩手の手芸品を大学祭などで販売しています。**大変だけど楽しい！：**販売する手芸品の材料やデザインを決め、試作品まで作って、被災地の方に商品の製作をお願いしているので、サークルのみんなの手芸スキルがぐんぐん上がった（笑）。手芸が得意な方はぜひ活動に参加してほしいです。

交流会の後、みんなで記念撮影